



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月10日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 8214 URL <https://www.aoki-hd.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 英和
 問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長 (氏名) 田村 春生 (TEL) 045-941-1388
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 2022年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	75,595	21.2	2,017	—	1,676	—	586	—
2022年3月期第2四半期	62,382	11.5	△3,094	—	△3,436	—	△3,776	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 724百万円(—%) 2022年3月期第2四半期 △3,732百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	6.91	—
2022年3月期第2四半期	△44.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	220,765	127,989	57.7
2022年3月期	233,008	127,641	54.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 127,343百万円 2022年3月期 127,082百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2023年3月期	—	7.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	10.00	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

詳細は、本日別途開示しました「通期連結業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	172,700	11.5	8,800	61.7	8,150	86.9	4,100	59.9	48.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細は、本日別途開示しました「通期連結業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期2Q	87,649,504株	2022年3月期	87,649,504株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	2,746,746株	2022年3月期	2,746,514株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期2Q	84,902,871株	2022年3月期2Q	84,842,039株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料について)

・四半期決算補足説明資料については、2022年11月10日(木)の決算発表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

(四半期決算説明会資料について)

・当社は、2022年11月24日(木)に機関投資家・アナリスト向け決算説明会 (WEB説明会) を開催する予定です。この決算説明会資料については、開催当日の午前中に当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の変異株が7月以降急拡大しましたが、経済活動の制限が行われなかったことや9月以降感染者数が減少傾向となったことで個人消費を中心に全体としては持ち直しの動きが続きました。しかしながら、急激な円安や物価の高騰による家計への影響、原材料価格の上昇等により先行きは予断を許さない状況が続いております。

このような環境のなかで、当社グループは下記のような諸施策を実施した結果、売上高は755億95百万円（前年同期比21.2%増）、営業利益は20億17百万円（前年同期は営業損失30億94百万円）、経常利益は16億76百万円（前年同期は経常損失34億36百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億86百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失37億76百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

(ファッション事業)

ファッション事業では、商品面において、暑い夏を快適にお過ごしいただけるクールビズ関連及び「パジャマスーツ」、「アクティブワークスーツ」の各シリーズや「スーツ屋の仕立てたTシャツ」等のカジュアル関連の品揃えを強化いたしました。レディースでは、「MeWORK（ミワーク）」プロジェクトから小川彰子氏初監修のオフィカジセットアップを新たに発売するなど、オンでもオフでも快適にお召しいただけるアイテムをさらに充実いたしました。店舗面では、営業効率改善のためAOKIで7店舗及びORIHICAで6店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は597店舗（前期末610店舗）となりました。

これらの諸施策の実施等により、サマーフォーマルなどのクールビズ関連商品やレディース及びカジュアル衣料が好調に推移したこと並びに行動制限の緩和に伴いお客様のご来店が増加したこと等により、売上高は361億90百万円（前年同期比18.9%増）、営業利益は2億18百万円（前年同期は営業損失32億42百万円）と増収増益になりました。

(アニヴェルセル・ブライダル事業)

アニヴェルセル・ブライダル事業では、ブライダルフェアの開催及び販促強化の一環としてWEBやSNSを活用した効率の良い集客施策を実施いたしました。また、お客様のお声をもとに「チャペルウエディング」、「ファミリーウエディング」や「フォトウエディング」など、それぞれのウエディングスタイルとアイテムの磨き上げを実施いたしました。

これらの諸施策の実施等により、売上高は42億8百万円（前年同期比2.2%減）、営業損失は29百万円（前年同期は営業損失1億48百万円）となりました。

(エンターテイメント事業)

複合カフェの快活CLUBでは、寺島文庫のオリジナル動画配信や一部全国紙電子版の無料読み放題などのビジネスに役立つコンテンツを提供し、引き続き「日本全国どこでもオフィス」プロジェクトを推進いたしました。また、快活秋グルメの新メニューや三田製麺所監修の「油そば」の発売など飲食メニューの充実を図りました。カラオケのコート・ダジュールでは、ソフトクリーム食べ放題やキッズ向けキャンペーンの実施などファミリー向けのサービスを充実いたしました。FiT24は、単独店を中心に予定どおり出店を継続いたしました。新たに連結子会社となった株式会社ランシステムとは、セルフ化システムの他さまざまなノウハウの共有を継続しております。店舗面では、快活CLUBで4店舗及びFiT24で20店舗を新規出店した一方、業態転換及び営業効率改善のため快活CLUBで6店舗及びコート・ダジュールで8店舗を閉鎖した結果、ランシステムの複合カフェ自遊空間他120店舗（内フランチャイズ63店舗）を含め、当第2四半期末の店舗数は838店舗（前期末708店舗）となりました。

これらの諸施策の実施及び新型コロナウイルス感染症の影響が減少したこと等により、売上高は345億55百万円（前年同期比27.9%増）、営業利益は18億46百万円（前年同期は営業利益29百万円）と増収増益になりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業では、一部転貸店舗の原価が増加したこと等により、売上高は23億62百万円（前年同期比11.4%増）、営業利益は4億7百万円（前年同期比6.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、季節的要因等により前連結会計年度末と比べ122億43百万円減少し、2,207億65百万円となりました。

流動資産は、売掛金が季節的要因等により66億90百万円、現金及び預金が41億19百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ112億51百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が減価償却等により7億12百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ9億92百万円減少いたしました。

(負債)

流動負債は、買掛金が季節的要因等により46億77百万円、未払法人税等が法人税等の支払いにより19億44百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ53億68百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が約定返済等により69億47百万円減少したこと等より、前連結会計年度末と比べ72億22百万円減少いたしました。

(純資産)

純資産の部は、その他有価証券評価差額金が2億59百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ3億47百万円増加しております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下、「資金」といいます。)は、前連結会計年度末と比べ41億19百万円減少し、338億17百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、32億8百万円(前年同期と比べ20億6百万円増加)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が12億96百万円及び減価償却費が45億77百万円となった一方、法人税等の支払額が27億3百万円となったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、6億6百万円(前年同期と比べ45億96百万円減少)となりました。これは主に、新規出店及びリニューアル等に伴う有形固定資産の取得が24億3百万円となった一方、敷金及び保証金の返還等のその他の収入が15億82百万円となったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、67億21百万円(前年同期と比べ50億82百万円増加)となりました。これは主に、短期借入金の純増額が28億99百万円となった一方、長期借入金の約定返済が79億96百万円及びリース債務の返済が10億70百万円となったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績は、通期連結業績予想の進捗に対して売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は増加して推移いたしました。

通期の連結業績予想は、第2四半期連結累計期間の業績をベースに為替の動向や原材料価格の上昇等を考慮し下期の見直しを行い2022年5月12日に公表しました予想について修正いたしました。詳細は本日別途開示しました「通期連結業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご確認ください。

また、セグメント別の通期業績予想についても、以下のとおり修正しております。

【2023年3月期のセグメント別予想】

	ファッション 事業	アニヴェルセル・ プライダ ル事業	エンターテ イメント 事業	不動産賃貸 事業	連結
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	93,200	8,800	69,400	4,600	172,700
前期比(%)	105.1	110.3	121.8	103.8	111.5
セグメント利益	6,400	300	2,330	700	8,800
前期比(%)	133.4	—	394.9	79.2	161.7

(注) セグメント利益は営業利益ベースの数値であり、各セグメントの合計と連結との差異は、その他及び連結上の調整額です。

※ 上記の業績予想は、現時点で当社が入手している情報等に基づいて判断したものであり、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37,937	33,817
売掛金	11,808	5,118
棚卸資産	18,330	18,001
その他	6,481	6,370
貸倒引当金	△44	△46
流動資産合計	74,513	63,262
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	66,804	66,685
土地	30,760	31,022
その他（純額）	15,857	15,002
有形固定資産合計	113,422	112,710
無形固定資産		
投資その他の資産	5,538	6,192
投資その他の資産		
差入保証金	6,970	6,735
敷金	20,222	19,400
その他	12,381	12,518
貸倒引当金	△40	△55
投資その他の資産合計	39,534	38,599
固定資産合計	158,495	157,502
資産合計	233,008	220,765

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	15,272	10,594
短期借入金	—	3,000
1年内返済予定の長期借入金	10,844	12,304
未払法人税等	2,508	563
賞与引当金	1,814	1,680
役員賞与引当金	44	31
その他	13,930	10,871
流動負債合計	44,415	39,046
固定負債		
長期借入金	44,314	37,367
退職給付に係る負債	815	840
資産除去債務	7,680	7,889
その他	8,140	7,632
固定負債合計	60,951	53,729
負債合計	105,366	92,776
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	23,870	23,036
利益剰余金	82,821	83,673
自己株式	△3,489	△3,490
株主資本合計	126,484	126,503
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	235	495
退職給付に係る調整累計額	362	324
その他の包括利益累計額合計	598	819
新株予約権	559	645
非支配株主持分	—	20
純資産合計	127,641	127,989
負債純資産合計	233,008	220,765

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	62,382	75,595
売上原価	41,337	47,704
売上総利益	21,044	27,890
販売費及び一般管理費	24,139	25,873
営業利益又は営業損失(△)	△3,094	2,017
営業外収益		
受取利息	33	32
受取配当金	13	19
その他	70	117
営業外収益合計	117	168
営業外費用		
支払利息	188	188
固定資産除却損	74	52
その他	196	268
営業外費用合計	459	509
経常利益又は経常損失(△)	△3,436	1,676
特別利益		
雇用調整助成金等	484	254
特別利益合計	484	254
特別損失		
減損損失	546	634
臨時休業等による損失	1,434	—
特別損失合計	1,980	634
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△4,931	1,296
法人税、住民税及び事業税	432	529
法人税等調整額	△1,587	263
法人税等合計	△1,154	793
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,776	503
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△83
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,776	586

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,776	503
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	48	259
退職給付に係る調整額	△4	△38
その他の包括利益合計	43	221
四半期包括利益	△3,732	724
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,732	724
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△4,931	1,296
減価償却費	4,649	4,577
減損損失	546	634
臨時休業等による損失	1,434	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	24	△33
受取利息及び受取配当金	△47	△51
支払利息	188	188
売上債権の増減額(△は増加)	6,910	6,923
棚卸資産の増減額(△は増加)	129	486
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,935	△4,776
未払消費税等の増減額(△は減少)	278	△1,330
その他	△987	△1,856
小計	3,258	6,058
利息及び配当金の受取額	36	41
利息の支払額	△189	△188
法人税等の支払額	△800	△2,703
法人税等の還付額	169	—
臨時休業等による損失の支払額	△1,272	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,202	3,208
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△5,330	△2,403
無形固定資産の取得による支出	△496	△262
敷金及び保証金の差入による支出	△212	△70
信託受益権の純増減額(△は増加)	652	465
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の 取得による収入	—	82
その他	184	1,582
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,202	△606
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△5,000	2,899
長期借入れによる収入	9,000	—
長期借入金の返済による支出	△4,409	△7,996
リース債務の返済による支出	△1,224	△1,070
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の 取得による支出	—	△125
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△4	△428
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,638	△6,721
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,639	△4,119
現金及び現金同等物の期首残高	29,941	37,937
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,302	33,817

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書「注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りに用いた主要な仮定について重要な変更はありません。

ただし、主要な仮定に記載した新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない2019年3月期と比べた既存店売上高合計等の前提について、ファッション事業は、85%から88%を86%から90%に、エンターテイメント事業は、87%から92%(複合カフェで91%から97%、カラオケで77%から82%)を89%から92%(複合カフェで92%から97%、カラオケで80%から82%)に、アニヴェルセル・ブライダル事業の施行組数は概ね96%を96%から100%、一組単価は概ね77%を70%から77%にそれぞれ変更いたしました。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ファッ ション 事業	アニヴェ ルセル・ブ ライダル 事業	エンター テイメン ト 事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
ファッション	30,433	—	—	—	30,433	—	30,433	—	30,433
ブライダル	—	4,300	—	—	4,300	—	4,300	—	4,300
複合カフェ	—	—	23,273	—	23,273	—	23,273	—	23,273
カラオケ	—	—	2,220	—	2,220	—	2,220	—	2,220
フィットネス	—	—	1,517	—	1,517	—	1,517	—	1,517
その他	—	—	—	—	—	23	23	—	23
顧客との契約から 生じる収益	30,433	4,300	27,010	—	61,744	23	61,768	—	61,768
その他の収益	—	—	—	614	614	—	614	—	614
外部顧客への売上高	30,433	4,300	27,010	614	62,358	23	62,382	—	62,382
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	1	—	1,506	1,508	—	1,508	△1,508	—
計	30,433	4,302	27,010	2,120	63,866	23	63,890	△1,508	62,382
セグメント利益 又は損失(△)	△3,242	△148	29	433	△2,927	9	△2,917	△177	△3,094

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業です。

2. セグメント利益又は損失の調整額△177百万円には、セグメント間取引消去1,792百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,970百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「エンターテイメント事業」及び「不動産賃貸事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定し又は損益が継続してマイナスとなり回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ256百万円、288百万円及び1百万円です。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファッ ション事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	エンターテ イメント 事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
ファッション	36,190	—	—	—	36,190	—	36,190	—	36,190
ブライダル	—	4,202	—	—	4,202	—	4,202	—	4,202
複合カフェ	—	—	27,054	—	27,054	—	27,054	—	27,054
カラオケ	—	—	4,698	—	4,698	—	4,698	—	4,698
フィットネス	—	—	2,428	—	2,428	—	2,428	—	2,428
その他	—	—	330	—	330	12	342	—	342
顧客との契約から 生じる収益	36,190	4,202	34,512	—	74,904	12	74,917	—	74,917
その他の収益	—	—	20	657	677	—	677	—	677
外部顧客への売上高	36,190	4,202	34,532	657	75,582	12	75,595	—	75,595
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	6	23	1,704	1,734	28	1,762	△1,762	—
計	36,190	4,208	34,555	2,362	77,316	40	77,357	△1,762	75,595
セグメント利益 又は損失 (△)	218	△29	1,846	407	2,443	1	2,444	△427	2,017

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業等です。
2. セグメント利益又は損失の調整額△427百万円には、セグメント間取引消去2,015百万円、のれん償却額△38百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,405百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「エンターテイメント事業」及び「不動産賃貸事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定し又は損益が継続してマイナスとなり回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ31百万円、595百万円及び8百万円です。

(のれんの金額の重要な変動)

「エンターテイメント事業」セグメントにおいて、株式会社ランシステムの株式を取得し連結の範囲に含めたことよりのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては777百万円です。